

基本目標 17 身近なみどりを守り、育て、自然と共に暮らすまち

豊かな自然環境という強みなどを生かし、うるおいや安らぎを与える森林、公園などを保全・創出し、防災や市民交流の場として活用していくとともに、地域本来の生態系が維持された中で、自然と人との共生を実現するため、生物多様性¹⁶⁴の理解促進や外来種による被害防止などに向けた取組を進めていくことが重要です。

目指す姿

- 1 森林、農地、公園や河川などの保全・創出・整備により、豊かなみどりのあるまちの中で、誰もが健康的で幸福感の高い生活を送っています。
- 2 森林や公園などの身近なみどりが自然との触れ合いや人々の交流の場に加え、防災、経済活動、水源かん養¹⁶⁵、二酸化炭素の吸収などの多面的な機能を発揮し、都市の魅力やレジリエンス(自己回復力・強じん性)を高めています。
- 3 生物多様性が広く理解され、地域本来の生態系が維持された中で自然と人とが共生しています。

充実・強化する取組

- グリーンインフラの推進
- Park-PFIなどの公園内における民間活力の導入
- 森林の整備や道産木材の利用の促進

主な事業

事業名・担当部 [計画事業費]	事業内容 事業目標
動物愛護管理推進事業 保)保健所 [17 百万円]	「人と動物が幸せに暮らせるまち」の実現のため、(仮称)動物愛護センターの機能を活用し、動物愛護・適正飼養の教育普及の充実、動物に起因する諸問題解決への支援拡充、収容動物の福祉向上・譲渡推進を図ります。 犬猫の殺処分数(予後不良個体の人道的見地からの殺処分除く) 2022:0 匹 ⇒ 2027:0 匹
里山活性化推進事業 経)農政部 [25 百万円]	森林と森林に連なる農地の一体的な保全・活用を進めるため、農林事業者や地域住民等による里山地域 ¹⁶⁶ の魅力や価値を守り、向上させる取組みを支援します。 里山地域(西区小別沢)における遊休農地の面積 2022:0ha ⇒ 2027:0ha
(仮称)さっぽろ都市農業 振興基本計画策定 経)農政部 [22 百万円]	札幌の農業の振興に向けて都市農業振興基本法第 10 条に基づく地方計画を策定します。 札幌産農産物を「購入している」市民の割合 2022:67% ⇒ 2027:85%

¹⁶⁴ 生物多様性：地球上の多種多様な生き物がそれぞれ支え合い、つながり合いながら生きている状態。

¹⁶⁵ 水源かん養：森林の土壌が、水を徐々に地中深くに浸透・貯留させ、時間をかけて河川へ送り出すことによって、洪水の緩和や流量の安定化が図られるとともに、水質が浄化されること。

¹⁶⁶ 里山地域：市街地の周辺にあって、緑が比較的豊かであり、緑を保全し、及び創出しながら市街地の周辺にふさわしい土地の活用を図る山地丘陵地域。

事業名・担当部 [計画事業費]	事業内容
	事業目標
鳥獣被害防止対策事業 経)農政部 [35百万円]	鳥獣による農作物被害の低減に向け、鳥獣被害防止対策を強化します。 有害鳥獣対策による農作物被害額 2022:60,744千円 ⇒ 2027:54,670千円
生物多様性推進事業 環)環境都市推進部 [134百万円]	「生物多様性国家戦略 2023-2030」の内容を踏まえ、「生物多様性さっぽろビジョン」の改定を行い、生物多様性保全の施策を進めます。 生物多様性さっぽろビジョン改定 2022:－ ⇒ 2024:改定
さっぽろヒグマ基本計画 推進事業 環)環境都市推進部 [182百万円]	「さっぽろヒグマ基本計画 2023」に掲げる目指す姿の達成に向け、ヒグマの出没対応、市街地への侵入抑制策を強化するとともに、市民へのヒグマに対する意識醸成を図り、市民と協働してヒグマ対策を実施します。 ヒグマに出遭わない、寄せ付けない対策を知っている市民の割合 2022:－ ⇒ 2027:70%
円山動物園経営基盤安定化調査事業 環)円山動物園 [3百万円]	社会教育施設として最大の効果を発揮するため、経営基盤の安定化や基金の活用など持続可能な動物園運営のあり方について検討します。 持続可能な運営手法の導入検討 2022:－ ⇒ 2024:実施
札幌市認定動物園推進事業 環)円山動物園 [10百万円]	動物園と市民・事業者による生物多様性の保全へ向けた取組を促進するため、札幌市認定動物園の認定及び支援を行うとともに、認定を目指す施設に対する支援を行います。 認定動物園等への研修会実施件数 2022:－ ⇒ 2027:2回
アジアゾウ飼育技術向上・繁殖推進事業 環)円山動物園 [19百万円]	ゾウの健康管理及び飼育職員の安全確保のため、海外の準間接飼育 ¹⁶⁷ に詳しいゾウ専門家を招聘し、職員への技術研修を実施します。 ゾウの繁殖頭数 2022:－ ⇒ 2027:1頭
動物福祉 ¹⁶⁸ 向上強化事業 環)円山動物園 [67百万円]	飼育動物について獣舎や飼育方法を動物福祉の観点から評価し、良好な動物の飼育環境確保のため施設等の改善を実施します。 動物福祉規程に基づく外部評価における指摘事項への着手・改善率 2022:－ ⇒ 2027:70%以上
北海道ゾーン整備事業 環)円山動物園 [2百万円]	老朽化した猛禽舎の改築に合わせた北海道に生息する動物の総合展示・保全施設の整備に向け、調査研究を実施します。 北海道ゾーン基本方針策定に向けた調査研究の実施 2022:－ ⇒ 2025:実施
公園の官民連携推進事業 建)みどりの推進部 [74百万円]	公園の更なる魅力向上や持続可能な管理運営を推進するために、民間飲食施設の誘致をはじめとした、公園内への民間活力導入の検討及び事業化を進めます。 官民連携事業を導入した公園の来園者数の上昇割合 2022:－ ⇒ 2027:10%

¹⁶⁷ 準間接飼育：飼育員などが動物と同じエリアに入ることなく柵越しに採血などの管理を行う飼育方法。

¹⁶⁸ 動物福祉：動物が置かれた環境に起因する動物の身体的状態及び心理的状态。

事業名・担当部 [計画事業費]	事業内容
	事業目標
地域のみどりづくり支援事業 W 建)みどりの推進部 [275百万円]	様々な世代の市民・企業によるみどり豊かな潤いのある地域づくりを進めるため、地域の歩道、保育・教育施設などの地域にある施設を対象とした緑化の取組みに対して支援します。 地域のみどりを育てる活動に新たに取組んだ団体数(累計) 2022:4団体 → 2027:70 団体
都心のみどり推進事業 W 建)みどりの推進部 [220百万円]	みどり溢れ魅力と活力に満ちた都心の形成のため、官民連携による都心のみどりづくりを推進します。 都心部のみどり空間の創出に新たに取組んだ企業数(累計) 2022:5社 → 2027:15 社
多面的機能を発揮する森づくり事業 S2 建)みどりの推進部 [818百万円]	CO ₂ の吸収や水源かん養など森林の多面的な機能を発揮するため、手入れ不足の人工林の間伐 ¹⁶⁹ 等の森林整備や、道産木材利用、森林の普及啓発等を推進します。 私有林・市有林におけるCO ₂ 吸収の増加量 2022:- → 2027:1,528t-CO ₂

その他の事業

事業名	計画事業費	担当部
(仮称) 動物愛護センター整備事業	756 百万円	保) 保健所
類人猿館改築事業	887 百万円	環) 円山動物園
ホッキョクグマ保全推進事業	45 百万円	環) 円山動物園
公園造成事業 W	2,266 百万円	建) みどりの推進部
地域に応じた身近な公園整備事業 W	191 百万円	建) みどりの推進部
地域と創る公園再整備事業 W	6,890 百万円	建) みどりの推進部
札幌市みどりの基本計画推進事業	42 百万円	建) みどりの推進部
健やかな道路緑化推進事業 W	1,249 百万円	建) みどりの推進部
みどりのボランティア活動促進事業 W	70 百万円	建) みどりの推進部
くらしと自然を豊かにする河川環境整備事業	253 百万円	下) 事業推進部

¹⁶⁹ **間伐**：樹木の生長に伴い過密になった森林において、樹木の健全な発育を促すために一部の樹木を伐採すること。

まちづくりの分野8:都市空間

市民評価（まちづくりの基本目標の実現度合い（5段階評価））

⑱ コンパクトで人にやさしい快適なまち

【市民評価:現状値 3.43(2022 年度)→目標値 3.70(2031 年度)】

⑲ 世界を引きつける魅力と活力あふれるまち

【市民評価:現状値 3.32(2022 年度)→目標値 3.60(2031 年度)】

⑳ 都市基盤を適切に維持・更新し、最大限利活用するまち

【市民評価:現状値 2.98(2022 年度)→目標値 3.30(2031 年度)】

成果指標（再掲する指標を含む）

指 標	現状値	目標値
まちのバリアフリー化が進んでいると感じる市民の割合	54.9% (2022 年度)	66% (2027 年度)
日常生活における1日あたりの歩行時間	60分 (2022 年度)	65分 (2027 年度)
都心の区域内実容積率	237.8% (2021 年度)	255% (2027 年度)
地域交流拠点の区域内実容積率	102% (2021 年度)	110% (2027 年度)

基本目標 18 コンパクトで人にやさしい快適なまち

人口減少・少子高齢化の社会においても持続可能な都市経営を行うためには、商業・サービスや行政機能等の都市機能を集積し、札幌らしい個性的で魅力的な景観や歩きたくなる空間を市民・事業者との協働により形成するとともに、市民生活・経済活動を支える持続可能な交通ネットワークを確立することが重要です。

目指す姿

- 1 都市空間の種別に応じた土地利用と四季の変化が感じられる良好な景観の形成などにより、多様なライフスタイルを実現できる魅力あるまちになっています。
- 2 「地域交流拠点」では、商業・サービス機能や行政機能など多様な都市機能の集積が進み、快適な交流・滞留空間や歩きたくなる空間が形成され、様々な活動が行われています。
- 3 「複合型高度利用市街地」では、集合型の居住機能と多様な生活利便機能が集積し、「一般住宅地」では、多様な居住機能と生活利便機能が調和を保って立地し、「郊外住宅地」では、地域特性に応じた生活利便機能が確保されたゆとりある良好な住環境が維持されています。
- 4 四季を通じて、誰もが快適に利用でき、環境にもやさしい移動環境・手段が整備されることにより、公共交通を軸とした持続可能でシームレスな交通ネットワークが確立されています。

充実・強化する取組

- 市街化調整区域も含めた計画的・戦略的な土地利用の促進
- 都心・地域交流拠点・住宅市街地（複合型高度利用市街地・一般住宅地・郊外住宅地）における居心地が良く歩きやすく・滞留したくなる空間の形成
- 住宅市街地の地域特性に合わせた機能の誘導や公共施設の複合化や再編
- 持続可能な公共交通ネットワークの形成

主な事業

事業名・担当部 [計画事業費]	事業内容 事業目標
歩きたくなるまちづくり推進事業 W 政)政策企画部 [17百万円]	健康寿命延伸に向けて、歩行を中心とした身体活動を促進するため、主に歩道や沿道施設等のハード面に着目し、目指すべきまちの将来像やその実現に向けた効果的な手法等について検討します。 (仮称)歩きたくなるまちづくりガイドラインの策定 2022:ー ⇒ 2025:策定
土地利用計画策定 政)都市計画部 [99百万円]	人口減少・超高齢社会の到来や頻発する自然災害に対応するため、都市計画マスタープランや立地適正化計画の改定を行うとともに、それらの実現に向けて、関連する土地利用計画制度 ¹⁷⁰ 等の見直しを行います。 第2次札幌市都市計画マスタープランの改定 2022:ー ⇒ 2025:改定

¹⁷⁰ 土地利用計画制度：まちづくりの諸施策のうち、都市計画法に基づく制度の一つであり、土地利用に関するルールを定め、個別の建築行為などを規制・誘導することによってまちづくりの目標の実現を図るもの。

事業名・担当部 [計画事業費]	事業内容
	事業目標
地域交流拠点等まちづくり推進事業 W 政)都市計画部 [34 百万円]	地域交流拠点等の機能向上や「居心地がよく歩きたくなるまちなか」の実現に向け、良好な民間開発やウォークアブルへの支援のほか、総合的なまちづくりを各拠点の特性に応じて市民や事業者との協働で推進します。 地域との協働で拠点のまちづくりに取り組んでいる地区数(累計) 2022:4地区 ⇒ 2027:6地区
地域まちづくり推進事業 W 政)都市計画部 [38 百万円]	住民と行政の協働による居住環境の維持及び魅力創出のため、住宅市街地において、地域まちづくりルール策定や更新、まちの価値を高める活動等の支援を行います。 住宅市街地の持続可能性・多様性の向上のため地域まちづくりに取り組んでいる地区数(累計) 2022:2地区 ⇒ 2027:4地区
景観計画推進事業 政)都市計画部 [130 百万円]	札幌市景観計画に基づいた中・長期的な取組を行い、札幌らしい個性的で魅力的な景観の形成を効果的に推進します。 札幌の景観を魅力的だと感じる人の割合 2022:76% ⇒ 2027:80%
学校跡活用検討事業 政)都市計画部 [11 百万円]	学校統合により生じる跡地・跡施設について、地域の活性化に向け民間活力の導入を視野に入れながら、地域とともに有効な活用方法を検討します。 跡活用の方針が決定した学校の割合 2022:－ ⇒ 2027:100%
もみじ台地域再構築推進事業 W 政)都市計画部 [56 百万円]	もみじ台地域が直面する少子高齢化や人口減少等に伴う課題に対応するため、地域とともにまちづくりの方向性を定めるとともに、まちの将来像の実現に向け具体的な土地利用再編の方針を検討します。 (仮称)もみじ台地域土地利用再編方針の策定 2022:－ ⇒ 2026:再編方針策定
真駒内駅前地区まちづくり推進事業 政)都市計画部 [64 百万円]	真駒内駅前地区において、滞留・交流空間の充実や様々な機能の誘導など駅の拠点性を活かしたまちづくりを進めるとともに、真駒内地域はもとより南区全体の魅力向上に資する拠点の形成を図ります。 「真駒内駅前地区まちづくり計画」の土地利用計画に基づく事業の実施 2022:計画素案策定 ⇒ 2027:工事着手
市街地整備等の初動期支援事業 S1 政)都市計画部 [39 百万円]	都市の健全な機能更新とエリアの価値及び持続性の向上を図るため、再開発やエアーマネジメント ¹⁷¹ に係る初動期活動を支援するとともに、再開発の長期的かつ総合的なマスタープランである都市再開発方針を見直します。 計画的な再開発やエアーマネジメントの事業化を目指す地区の数 2022:8地区 ⇒ 2027:18 地区
新さっぽろ駅周辺地区まちづくり推進事業 S1 政)都市計画部 [11 百万円]	新たなにぎわいを創出し地区の魅力向上させるため、引き続き多様な機能集積を目指すとともに、官民連携によるエアーマネジメント事業を実施します。 新さっぽろ駅周辺地区のまちづくりコンセプト(健康と食文化)を踏まえたエアーマネジメントの事業の数 2022:－ ⇒ 2027:6事業

¹⁷¹ エリーマネジメント：住民・事業主・地権者などが主体となって地域の現状や課題について話し合い、地域における良好な環境や地域の価値の維持・向上につなげる取組。

事業名・担当部 [計画事業費]	事業内容
	事業目標
篠路駅周辺地区まちづくり推進事業 政)都市計画部 [64百万円]	篠路駅周辺地区における地域交流拠点にふさわしいまちづくりを実現するため、民間企業・市民との連携により、篠路駅周辺地区まちづくり計画で定めた期待される機能の集積や地域主体のまちづくり活動を推進します。 篠路駅周辺地区まちづくり計画に基づく商業・業務・教育機能等の地域交流拠点にふさわしい機能集積 2022:－ ⇒ 2027:3種類
公共交通ネットワーク確保対策事業 政)総合交通計画部 [10,132百万円]	乗合バスの路線維持に関する補助やデマンド型交通 ¹⁷² 導入を行うとともに、持続可能な公共交通ネットワーク形成の指針となる地域公共交通計画を策定します。 市内路線バスの1日あたりの利用者数 2022:23.5万人 ⇒ 2027:23.5万人
路面電車活用推進事業 U 政)総合交通計画部 [6,203百万円]	札幌市では、まちづくりの観点から路面電車のループ化等を実施してきており、今後も利便性・快適性向上による沿線の活性化を図るため、既設線の機能向上や低床車両の導入等を推進します。 低床車両の割合(路面電車のバリアフリー化率) 2022:33% ⇒ 2027:47%
道路交通調査事業 政)総合交通計画部 [102百万円]	既存道路ネットワークの再構築を図るため、渋滞緩和等の道路交通円滑化対策の検討及び社会情勢の変化を踏まえた都市計画道路の検討を進めます。 渋滞交差点の検討箇所数 2022:12箇所 ⇒ 2027:27箇所
将来交通体系の調査・検討事業 U 政)総合交通計画部 [569百万円]	将来的な交通のあり方の検討や札幌市総合交通計画の見直しに向けた、総合的な交通体系の調査を実施します。また、2020年に改定した札幌市総合交通計画の交通戦略実現のための検討等を進めます。 将来的な交通のあり方の検討や札幌市総合交通計画の見直しに向けた調査の実施 2022:－ ⇒ 2027:実施
(仮称)南区複合庁舎整備事業 US1 市)地域振興部 [122百万円]	老朽化が進んでいる南区役所庁舎について、真駒内駅前地区まちづくり計画に基づき、南区民センターや南保健センター等と複合化した庁舎を整備します。 (仮称)南区複合庁舎の整備 2022:－ ⇒ 2027:事業者選定
清田区民センター移転・整備事業 U 市)地域振興部 [146百万円]	地域交流拠点清田の機能向上を図るため、清田区民センターの清田区役所周辺への移転により、地域のにぎわい交流づくりや利便性向上を目指します。 清田区民センターの整備 2022:－ ⇒ 2027:基本・実施設計
空き家対策事業 都)建築指導部 [185百万円]	空き家の適切な管理による地域の安全確保と生活環境の保全を図り、併せて空き家の活用を促進するため、総合的な空き家対策を推進します。 安全性等に問題のある空き家(特定空き家等)の件数 2022:223件 ⇒ 2027:219件

¹⁷² デマンド型交通：予約型の運行形態の輸送サービス。

事業名・担当部 [計画事業費]	事業内容
	事業目標
地域交流拠点における 賑わい創出事業 清)市民部 [25百万円]	「きよたマルシェ」や「きよフェス」といった取組を定着・発展させ、地域交流拠点である区役所周辺から賑わいを生み、地域の魅力を広く発信する仕組みを構築することで、交流人口の増加、ひいては定住人口の確保を図ります。
	地域交流拠点清田の賑わいづくりに協力した団体・企業(累計) 2022:69 団体 ⇒ 2027:84 団体

その他の事業

事業名	計画事業費	担当部
まちづくりセンター・地区会館小学校複合化等 整備事業 <input type="checkbox"/>	1,505 百万円	市) 地域振興部
生活道路等整備事業	23,462 百万円	建) 土木部
篠路駅周辺連続立体交差 ¹⁷³ 等整備事業 <input type="checkbox"/>	5,037 百万円	建) 土木部
骨格道路網等整備事業	56,623 百万円	建) 土木部
篠路駅東口土地区画整理事業	1,902 百万円	都) 市街地整備部

¹⁷³ **連続立体交差**：鉄道の一定区間を高架化することにより、その一定区間内にある複数の踏切の除却及び鉄道と道路の立体交差化を実現すること。

基本目標 19 世界を引き付ける魅力と活力あふれるまち

札幌が更なる発展を遂げるために、その中心である都心が果たす役割は非常に大きく、再開発等を通じたまちのリニューアルや北海道新幹線の札幌駅までの延伸・開業を契機として、国内外から投資を呼び込み高次の都市機能の集積を進めるとともに、広域的な交通ネットワークを充実させることが必要です。

目指す姿

- 1 「都心」では、民間投資が活発化し、新しい時代にふさわしい高次の都市機能の集積が進んでいます。また、快適な交流・滞留空間やみどりの創出、移動環境の充実により、魅力的でうまいのある歩きたくなる都心が形成されるとともに、データや先端技術の活用などにより、イノベーションが創出され、新しい価値が生まれ続けています。
- 2 「高次機能交流拠点」では、国際的・広域的な観点を持った産業や観光、スポーツ、文化芸術などの都市機能の高度化と集積が進み、国内外問わず、多くのヒト・モノ・投資・情報を呼び込んでいます。
- 3 「工業地・流通業務地」では、操業環境の保全や土地利用の再編、低未利用地等の適切な活用などにより、老朽化した施設の更新や機能の高度化・複合化が進んでいます。
- 4 広域交通ネットワークの充実・強化により、道内の都市や観光地を始め、国内外の地域とのつながりが深まり、新たな交流が促進され、さっぽろ圏はもとより北海道全体の社会経済活動が活発化しています。

充実・強化する取組

- 都心・地域交流拠点・住宅市街地(複合型高度利用市街地・郊外住宅地・一般住宅地)における居心地が良く歩きやすく・滞留したくなる空間の形成【再掲】
- 丘珠空港周辺、スノーリゾートエリアなどにおける札幌市の強み・魅力を更に高める都市機能の高度化と集積

主な事業

事業名・担当部 [計画事業費]	事業内容 事業目標
都心エリアマネジメント 推進事業 政)政策企画部 [97百万円]	都心の継続的な発展を支えるため、駅前通・大通・創成東をはじめとした各地区におけるエリアマネジメントを官民が一体となって推進するとともに、エリアマネジメントを支援するための補助等の取組を実施します。 エリアマネジメント支援により自立・進展したまちづくり活動の件数(累計) 2022:ー ⇒ 2027:10件
中島公園駅周辺地区まちづくり推進事業 政)政策企画部 [15百万円]	中島公園駅周辺地区まちづくり基本構想に基づき、にぎわいの軸(札幌駅前通)南端の新たな拠点形成に向けたまちづくりの取組を推進します。 中島公園駅周辺地区まちづくり基本構想等を踏まえ支援・誘導した都市計画決定または事業計画決定の件数(累計) 2022:ー ⇒ 2027:1件
大通・創世交流拠点まちづくり推進事業 政)政策企画部 [257百万円]	多くの建物が更新時期を迎えている機会を捉え、「大通及びその周辺のまちづくり方針」のゾーンごとの将来像の実現に向け、象徴的な拠点が形成されるようまちづくりを推進します。 大通・創世交流拠点における都市計画決定又は事業計画決定の件数(累計) 2022:ー ⇒ 2027:4件

事業名・担当部 [計画事業費]	事業内容
	事業目標
大通公園西周辺エリア 土地利用検討事業 政)政策企画部 [2,509 百万円]	「大通及びその周辺のまちづくり方針」のゾーンごとの将来像の実現に向け、地区に集積する施設を活かし集客交流機能の向上を図るとともに、既存資源を活かした土地利用となるよう検討を進めます。 北1西12地区の土地利用 2022:方向性決定 ⇒ 2027:定借契約の締結
居心地が良く歩きたくなる都心まちづくり推進事業 W 政)政策企画部 [31 百万円]	歩行者環境の改善や回遊性の向上等のため、都心の現状や課題、取組の方向性を整理し、今後の取組の基本的な考え方をとりまとめることで、“人”中心の居心地が良く歩きたくなる都心まちづくりを推進します。 都心にまち歩きが楽しめる通りや場所が多いと思う市民の割合 2022:52% ⇒ 2027:57%
都心機能強化検討事業 政)政策企画部 [47 百万円]	現行の第2次都心まちづくり計画を見直して第3次都心まちづくり計画を策定し、都心機能の強化を図ります。 都心が魅力的だと思う市民の割合 2022:73% ⇒ 2027:75%
札幌駅交流拠点まちづくり推進事業 政)政策企画部 [7,821 百万円]	札幌駅交流拠点の再開発と併せて、エリア価値の向上を推進するため、エリア全体での調整が必要な内容の検討や公共空間の整備方針の策定、マネジメント体制の構築、周辺街区開発に向けた支援を実施します。 札幌駅交流拠点(北5西1・西2地区、北4西3地区)の再開発事業の進展 2022:都市計画決定 ⇒ 2027:整備継続
新幹線札幌駅東改札口 関連整備事業 政)政策企画部 [2,303 百万円]	北海道新幹線札幌駅の利便性向上に加え、新幹線の整備効果を創成東地区のまちづくりに波及させるため、東改札口を整備します。また、駅周辺の快適性や魅力の向上に向けた検討を実施します。 新幹線札幌駅東改札口の整備 2022:基本設計完了 ⇒ 2027:整備継続
創成東地区まちづくり推進事業 政)政策企画部 [41 百万円]	創成東地区の魅力・活力を高めるため、地域住民や事業者によるエリアマネジメント活動への支援や、民間事業者による開発の支援を実施します。 創成東地区をよく訪れる人の割合 2022:5% ⇒ 2027:8%
北8西1地区市街地再開 発事業 S1 政)都市計画部 [2,058 百万円]	民間活力を活用し、札幌駅交流拠点にふさわしい土地の高度利用や都市機能の更新を図るとともに、地下通路などを整備するため、北8西1地区の再開発事業を支援します。 北8西1地区市街地再開発事業の進捗 2022:整備継続 ⇒ 2023:しゅん功
民間投資を活用した市 街地再開発事業等推進 事業 S1 政)都市計画部 [1,701 百万円]	民間活力を活用し、土地の高度利用と都市機能の更新を図るため、公共施設の整備や防災性の向上等、安全で快適な都市環境の形成を進めることができる市街地再開発事業や優良建築物等整備事業 ¹⁷⁴ を推進します。 新規再開発事業等に事業着手した地区数(累計) 2022:- ⇒ 2027:3地区

¹⁷⁴ 優良建築物等整備事業：民間の建築活動の適切な誘導により市街地環境の向上などを図るため、国の要綱に基づき、国や地方公共団体が必要な助成を行うもので、都市再開発法の手続きを必要としない任意の事業。

事業名・担当部 [計画事業費]	事業内容
	事業目標
北5西1・西2地区市街地 再開発事業 S1 政)都市計画部 [39,009 百万円]	民間活力を活用し、札幌駅交流拠点にふさわしい土地の高度利用や都市機能の更新を図るため、北5西1・西2地区の再開発事業を支援します。 北5西1・西2地区市街地再開発事業の進捗 2022:組合設立 ⇒ 2027:整備継続
北4西3地区市街地再開 発事業 S1 政)都市計画部 [20,067 百万円]	民間活力を活用し、札幌駅交流拠点にふさわしい土地の高度利用や都市機能の更新を図るため、北4西3地区の再開発事業を支援します。 北4西3地区市街地再開発事業の進捗 2022:都市計画決定 ⇒ 2027:整備継続
大通西4南地区市街地 再開発事業 S1 政)都市計画部 [8,273 百万円]	民間活力を活用し、大通・創世交流拠点にふさわしい土地の高度利用や都市機能の更新を図るため、大通西4南地区の再開発事業を支援します。 大通西4南地区市街地再開発事業の進捗 2022:都市計画決定 ⇒ 2027:整備継続
公共交通システム検討 事業 U S2 政)総合交通計画部 [585 百万円]	新幹線札幌延伸を見据えた札幌駅周辺の開発等を受け、都心部における移動の利便性を高めるため、社会実験を実施するなど、新たな公共交通システムの検討を行います。 創成川以東地域における本格運行に向けた社会実験の実施回数(累計) 2022:- ⇒ 2027:2回
創成川通機能強化検討 調査事業 政)総合交通計画部 [41 百万円]	都心と高速道路を結ぶ創成川通(国道5号)の機能強化を円滑に進めるため、市民と情報を共有するとともに、国等の関係機関と連携して必要な検討を行います。 市民との情報共有の取組の回数(累計) 2022:8回 ⇒ 2027:13回
札幌駅周辺交通施設調 査検討事業 U 政)総合交通計画部 [2,214 百万円]	2030年度末の北海道新幹線札幌延伸を見据え、国内外から来客を迎える札幌駅交流拠点の魅力高めるとともに、多様な交通を支えにぎわいを形成する交通結節機能の充実を図る基盤整備の検討・調整を行います。 駅前交通広場(北口・南口・東改札口)、創成川上空歩行者動線の整備 2022:- ⇒ 2027:設計・工事着手
北5西2地区バスターミ ナル整備事業 U 政)総合交通計画部 [8,848 百万円]	札幌駅周辺に分散する市内路線バス乗降場等の集約や交通結節点 ¹⁷⁵ の強化を図り、周辺の再開発と一体的な交通ターミナルの実現を目指し、事業者に対し、北5西2地区バスターミナル整備に係る事業費を補助します。 北5西2地区バスターミナルの整備 2022:- ⇒ 2027:整備継続
丘珠空港利活用推進事 業 政)総合交通計画部 [386 百万円]	「丘珠空港の将来像」の実現に向けて、滑走路延伸を含む空港機能強化や空港周辺の賑わい創出等の取組の実施に向けた検討、路線の誘致やPR活動等を実施し、丘珠空港の利用促進を図ります。 丘珠空港年間利用者数 2022:32万人 ⇒ 2027:50万人

¹⁷⁵ 交通結節点：複数・異種の交通手段の接続が行われる場所。

事業名・担当部 [計画事業費]	事業内容
	事業目標
北海道新幹線推進事業 S1 政)総合交通計画部 [162百万円]	北海道新幹線の札幌延伸・開業の早期実現に向けて、円滑に事業を進めるための協議・調整、国や鉄道・運輸機構等への要望、市民等への情報提供、啓発・PR活動を行います。 啓発・PR活動の年間実施回数 2022:48回 ⇒ 2027:80回
都心部公園機能向上事業 W 建)みどりの推進部 [61百万円]	市民や来街者が多く訪れる都心の中で、みどり豊かな都心部の公園に求められる施設整備や管理運営、民間資本の活用等を検討し、魅力あふれる公園づくりを進めます。 都心部公園に関する魅力向上の検討 2022:- ⇒ 2024:実施
地下鉄南北線さっぽろ駅改良事業 交)高速電車部 [12,957百万円]	駅利用者の移動円滑化と利便性向上を実現するため、新たなホームを増設するとともに、エスカレーター等の昇降設備を整備します。 ホーム増設 2022:着工 ⇒ 2027:駅躯体完成

その他の事業

事業名	計画事業費	担当部
まちづくり基礎調査・研究事業	250百万円	政)政策企画部
札幌ドーム保全事業	4,871百万円	ス)スポーツ部

基本目標 20 都市基盤を適切に維持・更新し、最大限利活用するまち

政令指定都市への移行と人口の急増に合わせて整備したインフラ施設や市有建築物のストックを大量に抱える中、公共・民間も含めた施設の老朽化対策が課題であり、計画的な維持・保全のほか、更新時の集約・複合化を進めるとともに、道路空間を滞留空間として活用するなどの都市アセットの利活用を進める必要があります。

目指す姿

- 1 道路、交通施設、上下水道、公園、河川、廃棄物処理施設等のインフラや、住宅、事務所、区役所、学校、スポーツ施設等の建築物は、老朽化のほか、必要な機能や人口動態、地域の特性なども踏まえ、計画的な維持・保全・更新・再配置・複合化が行われ、誰もが快適に利活用しています。また、ICTや先端技術の活用により、効率的な維持・保全や施設規模の適正化などが行われています。
- 2 公共施設では、整備や運営・維持管理などに関する積極的な官民連携により、市民ニーズ・社会経済情勢を捉えた多様で柔軟なサービスの提供が行われています。
- 3 道路や広場などの都市基盤等の空間が有効に利活用され、まちにゆとりやにぎわいが生まれています。

充実・強化する取組

- 道路や広場などの空間の柔軟な利活用の推進と民間による利活用の促進

主な事業

事業名・担当部 [計画事業費]	事業内容 事業目標
札幌市役所本庁舎調査事業 U S1 総) 行政部 [12 百万円]	老朽化が進んだ札幌市役所本庁舎について、今後整備を進めるにあたっての課題や備えるべき機能等を整理し、本庁舎に関する基本的な考え方を検討します。 札幌市役所本庁舎整備に向けた調査・検討 2022: - ⇒ 2024: 実施
中央区複合庁舎整備事業 U 市) 地域振興部 [10,068 百万円]	4つのコンセプト(「誰にもやさしい庁舎」「長く愛着を持てる庁舎」「災害に強い庁舎」「環境・景観に配慮した庁舎」)に基づいた中央区複合庁舎(中央区役所、中央区民センター、中央保健センター)を整備します。 新庁舎の供用開始 2022: 新庁舎建設工事 ⇒ 2024: 新庁舎供用開始
里塚斎場整備事業 保) 保健所 [62 百万円]	施設の老朽化や構造上の不具合が生じている里塚斎場について、多死社会 ¹⁷⁶ を見据えた整備計画を策定するとともに当該計画に基づき、火葬場の安定運営に必要な体制整備を進めます。 里塚斎場の整備計画策定 2022: 検討 ⇒ 2025: 計画策定
市営霊園運営改善事業 保) 保健所 [537 百万円]	少子高齢社会が進展することによる墓地需要変化や墓地無縁化への対応など、持続可能な墓地の安定運営に必要な体制整備を進めます。 無縁墓 ¹⁷⁷ 及び無縁墓疑いの墓の割合 2022: 16% ⇒ 2027: 6%

¹⁷⁶ 多死社会：高齢化が進展して死亡者数が非常に多くなった社会。

¹⁷⁷ 無縁墓：継ぐ人や縁のある人がいなくなった墓。

事業名・担当部 [計画事業費]	事業内容
	事業目標
斎場運営体制構築事業 保)保健所 [101 百万円]	多死社会の到来に伴う火葬件数の増加に対応した火葬場運営を実現するため、2021 年度に策定した運営計画に従い、火葬場の安定運営に必要な体制整備を進めます。 火葬場入場前の車内待ち時間 2022:64 分 ⇒ 2027:30 分
円山動物園施設整備保全事業 環)円山動物園 [83 百万円]	円山動物園を安全安心かつ効率的に運営するため、施設長寿命化のための保全計画を策定します。 施設保全計画の策定 2022:- ⇒ 2025:策定
道路維持管理計画策定 建)土木部 [355 百万円]	札幌市が管理する道路の状態を定期的な調査により継続的に把握し、効率的・効果的な維持管理を推進します。 幹線及び緊急輸送道路 ¹⁷⁸ 、補助幹線道路の路面性状調査 ¹⁷⁹ 実施率 2022:25% ⇒ 2027:100%
雪対策施設整備事業 S2 建)土木部 [4,348 百万円]	持続可能な雪対策を推進するため、雪処理施設やロードヒーティングといった雪対策施設の改修を行うとともに、新たな融雪施設の整備を進めます。 雪処理施設の運用数 2022:18 箇所 ⇒ 2026:19 箇所
安全・安心な公園再整備事業 U W 建)みどりの推進部 [11,255 百万円]	誰もが公園を安全に安心して利用できるよう、老朽化した公園施設の更新や部分的な機能再編、バリアフリー化等を実施します。 総合・運動・地区公園のうち、再整備が実施された公園の割合 2022:10% ⇒ 2027:26%
分譲マンション適正管理推進事業 都)市街地整備部 [50 百万円]	分譲マンションについて、相談窓口設置、セミナー開催及びアドバイザーの派遣を行うとともに、管理計画認定制度を運用し、助言等を行うことで、適正な維持管理等を推進します。 管理計画認定制度の認定数(累計/更新含む) 2022:- ⇒ 2027:2,160 戸
市営住宅設備更新事業 都)市街地整備部 [2,035 百万円]	建替と設備更新が一体となった全体計画を策定するため、市営住宅管理棟数のうち、解体予定がある 67 棟を除く 642 棟の設備調査を実施します。併せて、緊急度の高い設備改修を先行して実施します。 設備調査の結果から 642 棟に対する改修計画を策定 2022:- ⇒ 2027:策定
白川第1送水管更新事業 水)給水部 [3,338 百万円]	昭和 40 年代に布設した白川第 1 送水管は経年劣化が進み、耐震性能も不足しているため、2038 年度までに耐震管で更新し、送水ルート多重化を進めることで、将来にわたり安定給水可能な水道システムを整備します。 事業進捗率 2022:- ⇒ 2027:14%

¹⁷⁸ 緊急輸送道路：災害時等において、緊急輸送などを円滑に行うために、防災拠点間を相互に連絡する道路。

¹⁷⁹ 路面性状調査：舗装のひび割れ率・わだち掘れ量・平たん性などを測定する調査。

事業名・担当部 [計画事業費]	事業内容
	事業目標
厚別副都心地区屋外案内板ユニバーサルデザイン化事業 U 厚)市民部 [10百万円]	大規模複合開発が行われた厚別副都心地区の更なる活性化を図るため、屋外案内板のユニバーサルデザイン化を行い、年齢の違いや障がいの有無等に関わらず全ての人が周遊しやすい環境を整備します。 ユニバーサルデザイン化した屋外案内板の数 2022:- ⇒ 2024:3基
学校施設冷房設備整備事業 W 教)生涯学習部 [13,760百万円]	子どもが夏季期間においても安全かつ快適に学ぶことができる環境を確保するため、学校施設に冷房設備を整備します。 各教室に冷房設備を整備した学校の数 2022:- ⇒ 2027:292校
学校施設改修等整備事業 教)生涯学習部 [29,597百万円]	学校機能の維持のため、学校施設の様々な施設設備に必要な計画的な改修を行います。 整備対象校改修対応率(年間) 2022:100% ⇒ 2027:100%
学校施設長寿命化改修事業 教)生涯学習部 [18,859百万円]	老朽化した学校施設について、安全・安心な教育環境を確保しつつ、新しい時代の学びを実現するため、教育環境の向上と老朽化対策を一体的に行う長寿命化改修を実施します。 計画期間内の工事着手校数(累計) 2022:- ⇒ 2027:22校

その他の事業

事業名	計画事業費	担当部
スポーツ施設リフレッシュ事業 W	2,224百万円	ス) スポーツ部
橋梁長寿命化修繕事業	9,737百万円	建) 土木部
道路等補修事業	23,250百万円	建) 土木部
道路施設等維持更新事業	4,639百万円	建) 土木部
下水道施設の再構築事業	134,528百万円	下) 事業推進部
河川施設等保全・更新事業	2,585百万円	下) 事業推進部
市営住宅維持更新事業	35,574百万円	都) 市街地整備部
市有建築物保全推進事業	35,842百万円	都) 建築部
シェルター長寿命化および耐震事業	5,581百万円	交) 高速電車部
南車両基地改築ほか事業	26,198百万円	交) 高速電車部
白川浄水場改修事業	21,809百万円	水) 給水部
学校施設新改築事業	60,714百万円	教) 生涯学習部
学校施設増築事業	947百万円	教) 生涯学習部
学校施設解体事業	2,505百万円	教) 生涯学習部
学校給食施設整備事業	671百万円	教) 生涯学習部
学校用地取得事業	3,015百万円	教) 生涯学習部

4 各区の取組

(1) 中 央 区

<概況>

中央区は、北区と東区とはJR函館本線で、白石区と豊平区とは豊平川で、南区と西区とは南西部山地の稜線で接し、文字どおり市の中央部に位置しています。

明治の初め以来、札幌の中心として計画的なまちづくりが進められ、官庁や企業の近代的なビルが立ち並ぶ一方、円山や藻岩山、豊平川など豊かな自然にも恵まれています。

また、時計台や札幌市資料館などの歴史的な建造物が多く残り、札幌コンサートホールKitara(キタラ)、札幌オリンピックミュージアム、札幌市民交流プラザなどの文化施設や、札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)、創成川公園、札幌市北3条広場(アカプラ)も整備されるなど、魅力ある都市空間を形成しています。

<アクションプラン 2019 におけるまちづくりの取組>

アクションプラン 2019 において、中央区では4つの取組を進めてきました。

1つ目は、「中央区避難所運営体制づくり取組支援事業」です。これは、災害時に円滑な避難所運営を可能とするため、地域住民主体による運営訓練などの自主的な取組を引き続き支援してきたものです。これにより、防災訓練などが17回実施されました。今後も継続した支援を行っていく予定です。

2つ目は、「地域資源魅力体感事業」です。これは、中央区に愛着を抱いてもらい、まちづくり活動に参加したいという機運の醸成を図るため、周遊企画を実施するというものです。これにより、「ちゅうおう歴史ラリー」などを実施し、累計で855名に参加していただきました。

3つ目は、「都心のみどり景観魅力アップ事業」です。みどり豊かで魅力ある景観とするため、都心部の大径木に対し枝を作り直す剪定を実施することで、美しい街路樹樹形の形成に努めました。

最後に、「地域団体・学校・企業と連携した食育事業」です。区民の健康寿命延伸に向け食育ツール(日めくり式食育アイデア集)を地域団体・学校・企業と作成、普及してまいりました。作成にあたり、新型コロナウイルス感染拡大の影響でワークショップの開催はできませんでしたが、地域団体、学校、企業からアイデアを募り、また、動画配信等で情報提供を行うなど、累計で128団体と連携して区民に食育の普及啓発を進めてきました。

<取組目標・主な取組>

目標1:地域がつながり安心・安全に暮らせるまちづくり 健康づくりや子育て、防災等の取組により、地域の繋がりを深めるとともに防災力を向上することで、安心・安全に暮らせるまちづくりを進めます。	
子どもの健やかな成長をはぐくむまちづくり事業(★)	「世代間交流子育てフェスタ」を開催し、子育て家庭と地域住民等が相互に支えあい子育て環境の充実を図るほか、「子育て支援者研修会」を開催し、地域の子育て支援者の子育てに関する理解が深まるよう目指します。
地域団体・学校・企業・関係団体と連携した健康づくり(運動&食育)事業^{*1}	区民の健康寿命延伸のため、誰もが気軽にウォーキングや食習慣の改善等に取り組み、継続していけるような支援ツールの開発や普及啓発事業を地域団体・学校・企業・関係団体と連携して推進します。
安全・安心なまちづくり支援事業(★)	地域における防犯活動の立ち上げや活動を支援し、「中央区子供を見守るネットワーク会議」や「研修会」を開催することで、安全で安心なまちづくりを進めます。

目標2:地域活動の活性化 地域資源の活用、企業・団体との協働による地域経済の活性化に繋がる取組のほか、よりよいまちづくりの実現に向けた取組等への支援を行います。	
映像を活用した中央区啓発事業 (★)	区制 50 周年を記念して誕生した「中ウオークン」とともに区の魅力を発信する PR アニメーション動画を作成・公開することで、多くの市民に区への取組への興味や愛着をもってもらうことを目指します。
まち巡り魅力体感事業 (P.74)	キーワードラリーの周遊企画や、WEB サイト「まちのモトマップ」を活用した地域活動の紹介を通じて、中央区の地域資源に触れ、魅力を体感することによって、興味や愛着を持っていただき、将来的にまちづくり活動に参加する市民の割合増加に寄与します。
目標3:サービスアップの推進 今後の札幌のまちづくり行政を担う職員を育成し、窓口のサービスアップにつなげます。	
熱 Chuu! 若手職員プロジェクト (★)	若手職員の力を結集し、中央区を魅力あふれる街にするためのアイデアを創出し、今後の札幌のまちづくり行政を担う職員を育成します。

注) 事業名内の (★) は、「未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業」(P.73) による実施
 ※1 「運動習慣等推進事業」(P.57) による実施

(2) 北 区

<概況>

北区は市の北部に位置し、東は創成川と旧篠路村境界で東区に接し、西は新川を境に西区と手稲区に接しています。また、南は JR 函館本線で中央区に接し、北は発寒川、茨戸川、石狩川を境に石狩市、当別町と隣接しています。

地形は平坦で山がなく、多くの河川や屯田防風林など、特徴的な自然景観を有しています。また、地質・地盤は南地域の一部を除き、粘土質の土ならびに泥炭からなり、軟弱です。

昭和 20 年代までは、区の南部が市街化しており、他の地区は農業・酪農地帯でした。30 年代に入り、札幌市の人口規模の急膨張に並行して、新琴似、屯田、篠路地区などの市街化が進みました。現在は屯田、篠路、あいの里などの地域が新興住宅地として発展を見せているとともに、人口も約 29 万人と 10 区の中で最も多くなっています。

<アクションプラン 2019 におけるまちづくりの取組>

北区ではこれまで、地域住民や学生と連携した各種まちづくり活動をはじめ、災害に備えた避難場所運営研修のほか、歴史資源を活用したまちづくりや、健康寿命延伸を目指した健康づくり等を地域住民と協働で行ってまいりました。

特に、北区北部地域の区民の利便性向上を図るため、篠路出張所の機能拡充を行い、出張所の増築とバリアフリー化、福祉分野 19 項目の窓口サービスを新たに開始しました。

また、地域の特色ある歴史や文化を活用するため、「北区歴史と文化の八十八選」のスマートフォン用ウェブサイトの制作や、コースガイドのリニューアルを実施したほか、「農村歌舞伎」については、保存・継承団体へのヒアリングや他都市事例の調査を踏まえ、今後の支援の方向性をまとめた「北区農村歌舞伎の保存・継承に係る支援について」を策定するとともに、PR 動画やリーフレットの制作を行いました。

さらに、健康づくり・介護予防を推進する取組として、北海道大学大学院保健科学研究所との連携協定に基づく高齢者を対象とした介護予防教室や講話を実施するとともに、区民の交流促進と運動習慣の定着を目的とした「ぽっぴいウォーキング会」の開催や、各世代別の食育ランチオンマットの配布等、多角的な取組を進めてきました。

<取組目標・主な取組>

目標1:誰もがまちづくり活動に参加でき、コミュニティを育むまち 町内会に加え、企業やNPO、学生団体など、多様な主体が参画することにより、まちづくりのより一層の活性化を進めます。	
北区アダプト・プログラム支援事業 (★)	北区内にて道路清掃等のボランティア活動に取り組む企業や団体に対し、清掃用具の提供等の支援を行うほか、新たな企業・団体の参加を促します。
若者支援・連携事業 (★)	若者との協働、若者を中心としたネットワーク等の構築により、地域の賑わいや活力を生み出し、魅力ある地域づくりを目指します。
「ぽっぴいフェスティバル」事業 (★)	歴史や文化の魅力を発信しつつ、健康づくり等の多様な分野を取り上げ、区内の市民団体や区民が世代等を超えて交流する区民まつりを開催します。
目標2:歴史、文化を保存・継承することにより、地元への愛着を育むまち 豊かな歴史や文化を保存、活用し、新たな魅力と価値を生み出すことで、北区への愛着を育むまちづくりを進めます。	
北区歴史と文化の八十八選保存継承事業 (★)	「北区歴史と文化の八十八選」について、後世への継承を始め、事業 PR の強化や子ども向け学習などをテーマにしたイベント企画に取り組みます。

北区農村歌舞伎の保存・継承(★)	北区の伝統芸能である農村歌舞伎の保存・継承活動が継続できるよう、保存・継承活動に対する助成や広報・PRなどの必要な支援を行います。
「藍栽培」の歴史と文化の伝承(★)	篠路地区を中心とした一帯で盛んであった藍栽培の歴史を知ってもらうため、「藍の種」の配布や小学校などでの体験授業等を実施します。
亜麻の魅力発見事業★	麻生の地名の由来となった亜麻と地域との関わりを学べるよう、親子が楽しく北区と亜麻の歴史を学べる体験型のイベント等を開催します。

目標3:安全・安心に暮らせるまち 地域の防災への取組を支援するとともに、交通安全運動の推進により、安全・安心に暮らせるまちづくりを進めます。	
北区地区防災マップづくり支援(★)	災害への備えの促進と地域における防災意識の醸成を図るため、地域が独自に作成している防災マップの製作にあたり、経費助成による支援を行います。
みんなで作る安全で安心なまちづくり(★)	通行環境に関する安全性の向上などを図るため、学校周辺の環境の整備として、スクールゾーン看板や歩道上のストップマークなどを設置します。
災害時につなげる高齢者等要配慮者の見守り体制推進(★)	地域での見守り支え合い活動を推進し、災害時の要配慮者避難支援につなげるよう、情報提供や研修・啓発を行います。

目標4:誰もが健康的に暮らせるまち 子どもが健やかに育つとともに、健康寿命の延伸により、誰もが生涯元気に活躍できるまちづくりを進めます。	
ぽっぴいはっぴいプラン～地域とつくる「きたまち」すこやか事業～(P.57)	区民の健康寿命延伸に向け、区まちづくりキャラクター「ぽっぴい」を活用し、地域と連携して区民の健康づくりへの関心を高めるための各種事業を行います。
子育て家庭にやさしいまちづくり(★)	親子が、地域住民や学生と遊びを通して交流する「GO!GO!きたっこまつり in ぽっぴいフェスティバル」を開催します。
北区少年少女スポーツ大会(★)	少年少女の相互交流を図り、少年少女の健全育成にあたり、同時に、「スポーツ元気都市さっぽろ」の推進を図るためスポーツ大会を開催します。
冬季スポーツイベント(★)	雪合戦などの冬季スポーツ種目を通じて、雪中での遊びやスポーツに気軽に触れられる機会を提供し、冬季における区民の健康・体力づくりを図ります。
高齢者教室(北親大学)(★)	高齢者が様々な物事に興味・関心を持ち続け、積極的に挑戦していくことで生きがいを感じ、健康で豊かな生活を送れるよう高齢者教室を実施します。

目標5:誰もが快適に暮らせるまち 北区北部地域の行政機能を強化することで、子ども、高齢者、障がい者などに関する行政サービスの利便性を高め、誰もが生活しやすく住みよいまちづくりを進めます。	
篠路出張所機能強化事業(P.66)	保健福祉に係る窓口サービスを拡充した篠路出張所へのアクセス通路を整備することで、行政手続きのために誰もが来所しやすい環境をつくりまします。

注) 事業名内の(★)は、「未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業」(P.73)による実施

(3) 東 区

<概況>

東区は札幌市の北東部に位置しています。東は白石区、江別市、当別町と、西と北は創成川と旧篠路村境界で北区と、南はJR函館本線を境に中央区と接しています。人口は約26万人で北区に次いで第2位となっています。

東区は、農業、工業、商業の三拍子がそろったバランスの取れたまちです。農業では、経営耕地面積が10区中2番目の広さであり、東区の特産であるタマネギのほかコマツナを多く栽培しています。工業では、明治時代からの工業地帯である苗穂地区にJR苗穂工場や大規模な食品工場があり、丘珠地区には鉄工団地があります。

東区には大規模施設が相次いで整備されました。平成7年に「札幌市農業体験交流施設(サッポロさとらんど)」、9年に「札幌市スポーツ交流施設(つどーむ)」がオープンしました。平成17年には故イサム・ノグチ氏の設計による「モエレ沼公園」がグランドオープンとなり、いずれも札幌を代表する施設として多くの市民が利用しています。

<アクションプラン2019におけるまちづくりの取組>

東区では、区役所と関係団体や企業、教育機関等との協働・連携により以下のとおりアクションプラン2019に基づく取組を進めてきました。

「安全安心」の取組では、自主防災意識の向上を図るため、区民協議会との協働により自主防災活動(防災訓練・防災研修会)の支援や防災普及啓発を行いました。

「健康」の取組では、健康・スポーツ・食をテーマとし、幅広い年齢層やご家族連れの方も参加できる体験型のイベントを実施するとともに、テーマに沿ったコラム等を掲載した冊子を作成して区民へ配布しました。

「子育て・子ども」の取組では、学べる環境の整備に向けて、関係機関との協働により施設見学や企業活動などの体験を実施しました。

「東区の魅力と活力の向上」の取組では、区の魅力を広く発信するため、各種イベントでのPRや、動画・パンフレット・SNSによる広報を実施しました。加えて、スタンプラリーの実施により誘客・周遊を促し、賑わいの創出を図りました。

<取組目標・主な取組>

目標1:誰もが健やかに暮らせるまち スポーツを通して、誰もが生涯健康的に過ごすことができる取組を進めるとともに、関係機関と連携し区民の健康意識の向上を図る取組を進めます。	
健康・スポーツを生かした地域活性化事業(P.103)	スポーツ振興や健康増進の取組を行う企業・団体等と連携し、未来を担う子ども・若者たちを始めとする、幅広い世代の方々が気軽にスポーツに触れる機会を創出します。
ひがしく健康・スポーツまつり(★)	健康・スポーツ・食をテーマに、幅広い年齢層の多くの区民が参加・体験できるようなイベントを実施し、健康のための食習慣・運動習慣を身につけるきっかけの場を提供します。
東区健康づくり推進事業※1	関係機関と連携しながら区民が健康づくりに取り組むきっかけとなる機会を提供し、運動習慣の利点等を普及啓発することにより、東区民の健康意識の向上を図ります。

目標2:安全で快適な住みよいまち 札幌市未来へつなぐ町内会ささえあい条例の意義や趣旨を踏まえながら、町内会など地域のまちづくり活動の活性化を支援します。また、地域における防災意識の醸成を図り、地域防災力の向上に向けた支援を行うとともに、地域のニーズを踏まえた冬みち環境の構築に努めます。	
東区町内会活動活性化支援事業※2	地域を支える町内会への加入を促進し、活動の活性化を図るため、東区に転入された方などを対象として、町内会の役割や取組についての周知を図ります。
東区安全安心なまち推進事業 (★)	「東区防災協働社会」を構築するため、各地区のニーズに応じた自主防災活動の支援を実施するとともに、若年層や子育て世代等の多様な世代に対する防災普及啓発を行います。
東区冬みち地域連携事業※3	小学校での雪体験授業や除雪ボランティアの支援に加え、商業施設でのパネル展の実施など、地域と除排雪の課題を共有することで、地域と連携して良好な冬みち環境の構築に努めます。

目標3:魅力と活力にあふれた賑わいのあるまち 東区の企業・学校・団体等との協働により魅力あるまちづくりを進めるとともに、東区への来訪や周遊を促すことによって、より一層地域の賑わいを創出します。	
タッピーフレンズ事業 (★)	区と協力して地域貢献を行う企業・団体等を特別な仲間「タッピーフレンズ」と位置づけ、産官学民の積極的な連携を促すことにより、地域貢献活動の普及拡大並びに地域活性化の促進を図ります。
東区地域連携魅力創出・発信事業 (P.94)	タッピーフレンズの連携を促し、東区ならではの魅力資源（特産品・サービス等）の企画・開発等を支援することにより、区の魅力強化と地域の賑わい創出を図ります。

注) 事業名内の (★) は、「未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業」(P.73) による実施

※1 「運動習慣等推進事業」(P.57) による実施 ※2 「町内会活動総合支援事業」(P.72) による実施

※3 「持続可能な雪対策推進事業」(P.66) による実施

(4) 白 石 区

<概況>

白石区は市の東部に位置し、北は江別市と、南は東北通を境に豊平区及び清田区と接しています。また、東は厚別区、西は豊平川を境に中央区と東区に隣り合っています。

地下鉄沿線を中心に集合住宅が多く、また、人口密度が10区で最も高いとともに、生産年齢人口の割合が高く、老年人口の割合が低いという特徴（いずれも10区で2番目）があります。

区内には、東西方向にJR線、地下鉄、主要幹線、白石こころード（旧白石サイクリングロード）が、南北方向に道央自動車道や環状通が配されているなど、整備された各種交通網が生活の利便性を高めているとともに、区の東部に広がる流通センターは道内の物流拠点となっています。

また、「札幌コンベンションセンター」や「JICA 北海道（札幌）」等の施設もあり、札幌市の集客交流や国際交流の拠点としての役割も担っています。

<アクションプラン 2019 におけるまちづくりの取組>

白石区では、区民が「白石区に住んで良かった・住み続けたい」と思える魅力あるまちづくりを進めています。これを実現するため、目標1「安全・安心で快適に暮らせるまち」として、地域防災力の強化、子育て支援の充実、健康づくりの推進等に取り組むとともに、目標2「地域のチカラ、魅力の向上」として、町内会活動の活性化、若い世代のまちづくり参加、まちの魅力の創造等に、また、目標3「区民のための区役所」として、サービスアップの推進、積極的な情報発信等に取り組んでいます。

アクションプラン 2019 では、地域の災害対応力の向上に向けて、地域の自主防災組織体制の課題調査や防災講座の実施、親子向け防災イベント「白石おやこ防災フェスタ」の開催等に取り組みました。

また、地域コミュニティ活動の活性化に向けて、町内会活動ガイドの作成支援等を行うとともに、健康行動の促進に向けては、白石区の歴史跡を巡るウォーキングコースを検討し、「白石歴しるべウォーキングマップ」を作成しました。

このほか、サービスアップの取組として、婚姻届提出の記念撮影に使えるフォトプロップス(写真を楽しく撮るための小道具)を職員プロジェクトで作成しました。

<取組目標・主な取組>

目標1:安全・安心で快適に暮らせるまち 地域防災力の強化、子育て支援の充実、健康づくりの推進等に取り組めます。	
マスコットキャラクター活用による子どもの安全力を育む事業 (P.83)	子どもや親の防犯意識等の向上に向け、区庁舎にある市内唯一のえほん図書館と連携し、区のマスコットキャラ「しろっぴー・くろっぴー」を主人公とした絵本やアニメーションを製作するとともに、これを使った読み聞かせ等の地域活動を促進します。
地域防災力の強化^{*1}	地域の状況に応じて内容を選択できる防災講座を用意するとともに、子どもや親を対象とした防災イベントの実施や、災害時の避難行動要支援者への支援体制の確立に向けて、先進事例の普及啓発や避難所開設運営訓練等を行います。
子育て支援の充実^{*2}	地域主体の子育てサロンの運営支援や子育てボランティアのための講習会などを実施します。
健康づくりの推進^{*3}	健康を意識し、運動や食生活改善に向け自発的に行動する区民を増やすため、区内のウォーキングマップを活用したウォーキング事業等の実施により、気軽にウォーキングに親しめる環境を整えます。

環境にやさしいまちづくり (★)	市民・企業・行政の協働による「白石こころード」の清掃活動等を実施します。
より快適な冬期環境の実現※ ⁴	小学生に雪対策への関心を持ってもらうための「雪体験授業」や、地域除雪ボランティアへの除雪用具無償貸与等を実施します。

目標2:地域のチカラ、魅力の向上 町内会活動の活性化、若い世代のまちづくり参加、まちの魅力の創造等に取り組みます。	
地域コミュニティ活動の活性化※⁵	地域活動の中核を担う町内会活動の活性化に向けて、町内会活動ガイドの作成や担い手確保の取組などの町内会活動を支援するとともに、加入促進に向けた不動産事業者との連携に取り組みます。
若い世代のまちづくり参加 (★)	区内の小中学生を対象とした就労体験「白石でっち奉公」や、「白石区中学生の主張発表会」等を実施します。また、大学等と協働し、教育・研究活動等とまちづくりの双方に相乗効果が生まれるよう取り組みます。
まちの魅力の発信・発見 (★)	郷土意識や連帯意識の醸成に向けて、白石区ふるさと会と連携し、「ふるさとまつり」等を実施するとともに、地域の成り立ちに縁のある宮城県白石市や登別市との交流を行います。また、区内の見どころや旧跡などを「白石区ガイド」等で発信します。

注) 事業名内の (★) は、「未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業」(P.73) による実施
※1「地域防災活動推進事業」(P.76) による実施 ※2「地域子育て支援拠点事業」(P.44) による実施
※3「運動習慣等推進事業」(P.57) による実施 ※4「持続可能な雪対策推進事業」(P.66) による実施
※5「町内会活動総合支援事業」(P.72) による実施

(5) 厚 別 区

<概況>

厚別区は、市の東部に位置し、北東は江別市と、南東は北広島市と接しています。また、南は清田区と、西は厚別川、一部三里川を区境に白石区と隣り合い、面積は 24.38k ㎡と 10 区の中で最小です。

地形は J R 函館本線を境に、北の平野部、南の丘陵部に大きく分かれ、丘陵部は厚別川、野津幌川、三里川、小野津幌川が流れ、全体にゆるやかな起伏となっています。

街並みは、J R 新札幌駅、地下鉄新さっぽろ駅付近を中心とした商業地区と、周辺の住宅地からなっていますが、野幌森林公園など豊かな自然環境にも恵まれています。

<アクションプラン 2019 におけるまちづくりの取組>

地域防災力の向上と防災体制の強化について、厚別区では、防災訓練や研修等を実施したほか、地域住民を交えた避難所顔合わせなども行いました。

また、健康づくりに直結する「食育」と「運動」を合わせた「食とノルディックウォーキング体験講座」を実施するなど、区民の健康寿命延伸に向け、厚別区の地域特性を生かした取組を行いました。

子育て支援においては、子どもたちの遊びの体験の場の提供や、子育て家庭や地域住民などの世代間交流を深めることを目的とした「わいわい冬フェスタ in もみじ台」を開催するなど、安心して子育てができるよう様々な活動を行いました。

新さっぽろ駅周辺地区のにぎわい創出では、厚別中央市民交流広場及び科学館公園を再整備した上で、利用促進を行い、区民主体のまちづくり活動を促すなど、区中心部の活性化を通して、厚別区全体の活性化を図りました。

<取組目標・主な取組>

目標1: 区民主体・区民参加・区民サービス

区民が主体のまちづくり活動を、区民とともに考え、行うとともに、多くの区民がまちづくりに関心を持ち、積極的に参加できる機会を提供します。また、区民ニーズや課題を常に意識して業務に取り組み、区民サービスの向上に努めます。

区民協議会支援事業 (★)

区民協議会の運営や活動を支援することで、区民の創意工夫によるまちづくり活動を推進します。

まちづくり会議運営支援事業 (★)

厚別区の各地区のまちづくり会議が実施する各種事業への情報提供、広報などの支援を行います。

目標2: 安全・安心、健康づくり、子育て支援

区民が安全・安心に生活し、高齢の方が健康で活躍し続けることができるよう、防災・防犯、健康づくりに関する取組を強化するとともに、道路や公園などの機能保全とバリアフリー化を推進します。さらに、安心して子育てができるよう、子育て家庭のニーズに応じた交流の場や情報の提供などを行います。

防災対策及び地域防災力向上事業 (★)

地域住民や区役所職員に対し、防災に関する各種訓練や研修などを実施することにより、地域防災力の向上と防災体制の強化を図ります。

ノルディックウォーキングを通して地域の食とつながる元気アップ事業^{※1}

食育とノルディックウォーキングの取組を通して、区民の心身機能の向上を支援し、さらに地域の魅力を再発見しながら住民同士のつながりを深め、良好な健康習慣の維持を目指します。

地域における健康づくり活動推進事業^{※1}

地域が主催する健康づくりや福祉イベント等を支援することで、地域の健康づくり活動の充実を図るとともに、参加者の健康づくりへの意識づけ及び行動の実践・継続を促します。

厚別区親子同室講習会「スマイルあかちゃん」※2	同年齢の子どもを持つ家庭が少ない地域においても、保護者同士が関わりを持てるように交流の場を作るほか、地域の子育て支援に携わる主任児童委員が事業に参加することで、親子同士の繋がりや地域サロンへの繋がりを支援していきます。
-------------------------	---

目標3:生き生きとしたまちづくりの推進 高齢化率が高いことも踏まえながら、再開発などを契機としつつ、若者から高齢者まで、多世代の人々が明るく生き生きと暮らせるまちづくりを進めます。	
新さっぽろ駅周辺地区のにぎわい推進事業(★)	再開発を契機として、区民と産学官が連携しながら、新さっぽろ駅周辺地区のにぎわいづくりを推進することで、厚別区全体の活性化を図ります。
学生と地域の連携事業(★)	厚別区内の各学校と地域の連携を促進することにより、学生の学びの場を創出するとともに、地域課題の解決を目指します。
厚別副都心地区屋外案内板ユニバーサルデザイン化事業(P.128)	大規模複合開発が行われた厚別副都心地区の更なる活性化を図るため、屋外案内板のユニバーサルデザイン化を行い、年齢の違いや障がいの有無等に関わらず全ての人が周遊しやすい環境を整備します。

注) 事業名内の(★)は、「未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業」(P.73)による実施

※1「運動習慣等推進事業」(P.57)による実施 ※2「地域子育て支援拠点事業」(P.44)による実施